

第1回 NEPHRON FORUM 抄録

日 時：昭和62年12月19日

会 場：岡山大学医学部

世話人：太 田 善 介

1. 抗 DNA 抗体と glycosaminoglycan (GAG) の交叉反応性

岡山大学第三内科 柏原直樹 平川秀三 太田善介

目的：ループス腎炎の発症機序を検討するため、モノクローナル抗 DNA 抗体 (Mo-抗 DNA 抗体) 及び SLE 患者血清を用いて抗 DNA 抗体と腎糸球体基底膜成分である GAG との反応を検討した。方法：Mo-抗 DNA 抗体とヘパラン硫酸、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸の3種の GAG との反応を ELISA 法で検討した。SLE 患者血清を用いても同様の検討をおこなった。抗 DNA 抗体と GAG との反応様式を解明

するため、陽荷電物質ポリエチレンジアミン (PEI) 及びプロパノール存在下で Mo-抗 DNA 抗体と GAG との反応を検討した。結果：Mo-抗 DNA 抗体及び SLE 患者血清は3種の GAG との反応を認め、その反応は PEI で抑制され、プロパノールでは抑制をうけなかった。考察：抗 DNA 抗体と GAG とは主にクローン力で反応しており、その交叉反応性がループス腎炎の発症に関与している可能性が示唆された。

特別講演1. 「Goodpasture 抗原の分析」

近畿大学小児科 吉岡 加寿夫

ヒトの抗 GBM 型腎炎には、(1)腎炎のみのもの、(2)肺出血を伴うもの—Goodpasture (GP) 症候群—、(3)Alport 症候群 (難聴を伴う遺伝性腎炎) 患者の腎移植後に発症するもの、が知られている。ヒト抗 GBM 抗体が結合する GBM 中の物質は GP 抗原と呼ばれている。このヒト抗 GBM 抗体と、GP 抗原に関するいくつかの興味ある所見について、この Forum では解説した。要約すると、(1)GP 抗原はヒト GBM を collagenase にて、可溶化することによって得られ、強い陽性荷電をもつ dimer-monomer 構造

をとっている。(2)抗 GBM 抗体は患者によって、heterogeneity がある。(3)GP 抗原は、肺胞、皮膚、胎盤の基底膜中にも mask されて存在する。(4)Alport 症候群の男性患者では皮膚基底膜中の GP 抗原が欠損している。(5)肺出血を伴う患者と伴わない患者では、抗 GBM 抗体と肺胞基底膜との反応に違いがある。これらの成績は、GP 抗原—抗体系の不均一性、また全身基底膜病としての Alport 症候群の可能性などを示している。

2. 「抗 DNA 抗体の特異性 —モノクローナル抗体を用いた解析—」

千葉大学第二内科 小池 隆 夫